

私のモチーフ

絵画制作について

会員 川寄 猛



▲ 「船小屋」

私は20代後半から地元長岡で絵画教室を開いていた若井宣雄先生の教室に通い油絵を学びました。若井先生は当時示現会会員で人物像を得意とする作家でした。明治生

まれで、生涯筆1本で生計を立てて頑張つてこられた方でした。若井先生が描かれた山本五十六、河合繼之助らの肖像画が地元資料館に展示されています。



▲ 「北を指す風向計 (17)」

平成元年1月1日に亡くなられましたが、最後まで現役で制作活動に励んでおられました。先生が亡くなられた後、私は平成2年から示現会展に出品し、平成18年に会員になりました。

私は40代の頃、葦(あし)や萱(かや)を背景にバス停や、廃屋をよく描きました。葦・萱は大変好きなモ

チーフで春にすっと伸びて緑が大変美しく、秋には薄黄色に、その後はしだいに色が抜けて白っぽくなります。また、草むらの中に放置されたドラム缶、ブリキ缶、壊れた自転車等を構成してよく制作しました。

ここ十数年、私はよく漁港に出かけます。家から車で10分から30分ほどのエリア内にある寺泊漁港、出雲



▲ 「船小屋のある風景」



▲ 「漁港の一隅」



▲ 「風景のバス停にて」

崎漁港、間瀬漁港です。どこも鄙びた小さな港町で四季折々の表情を見せます。冬はシベリアから寒気が下がり雪を運んできます。厳しさ故に研ぎ澄まされた美しさを感じ、荒れた後の日差しが一点を射す光景は大変感动する瞬間です。また、季節毎に海の色が変化し、夕日が海に沈むさまは大変綺麗です。

私はこの様な海、漁港をテーマと

して船小屋・漁船・浮き・網などモチーフとし、絵を制作しております。船小屋の外壁（板壁）は色あせて厳しい環境の中、耐えてきた時間を感じさせ周りの色がどんどん調和しあい、落着きを見せています。私は在り来たりの風景が好きでスケッチブックに一隅を描きとめ、これらを構成し絵にしております。

ある時、寺泊漁港を散策していた

ら、放置されている漁具の中に赤い風向計を見つけました。役目を終え捨てられるのか魚網の下に隠れて配線は切れ、表面の塗装は剥がれ落ち、見るからにぼろぼろ、でも郷愁を誘うような感じがして、私は好きで絵のほぼ真中に入れておりま

す。他にも小型船舶を陸に引き上げるための巻き上げ機、ドラム缶等々、

私は古くてもう、使わなくなつた物、風化しつつある場面、情景を描き留め自分の画風が出来ればと思っております。これからも少しずつ絵の内容を変えつつも、風化した物、時間、を感じとれるような絵を描き続けたいと思います。